

●障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278

●グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

管理者 松原 正子

●発行/社会福祉法人ポム・ド・パン
●発行日/2017年1月31日

新たな
取り組み

課題学習スタート!! (療育活動)

全利用者

「生活介護の中に療育活動を取り入れる」



利用者の障害特性、利用者同士の相性、前回号で取り上げた太田ステージ評価による認知発達段階など、利用者ひとりひとりの特性を考慮しながら、日中活動の時間を使って、1～3人の少人数で課題学習の取り組みを始めました。

教材となるワークドリルも、職員が個々に合った適切なものを選択して、利用者が楽しくこの課題学習の時間を過ごせるように配慮しています。

職員からも、「利用者の新たな一面を見ることができた」「利用者の認知段階と普段の生活とのギャップに驚いた」「ゆったりとした時間を共有できてリフレッシュできた」などの声が上がっています。

また、この課題学習を通して、利用者との信頼関係の構築にも繋がっていく事も目的のひとつと考えています。

法人の理念のひとつでもある「何歳になっても成長することを信じます」職員も利用者と一緒に成長していきたいです。

主任生活支援員 竹内 俊介

ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

リサイクル
ペーパーボット
に続くリサイクル活動
第2弾

『空き缶つぶし作業を始めました』

自動車総連様から寄贈していただきました

今回寄贈していただいた空き缶潰し機は、以前から欲しい機械でした。ウインドヒルも社会貢献とリサイクル活動を作業に取り組めないかと色々考えていたところ、自動車総連様からの寄贈の話がありありがたく頂戴することに致しました。

これからはリサイクル班を作り、作業の一環として空き缶潰しをして、リサイクル活動に積極的に取り組みたいと思います。空き缶が必要になったら、また皆さんにお願いしますので、その時はご協力の程よろしくお願い致します。



自動車総連様の主な活動のひとつに「車両寄贈活動」があります。自動車産業のもつ特徴を強みとして、全国の車両を必要としている福祉施設へ 1985 年より施設の活動や送迎などのための車両を寄贈されております。

また、今回私達が寄贈していただいたような「物品寄贈活動」については、全国の「地方協議会」が地域のきずなを強みとし、困窮している小規模の福祉施設を中心に寄贈先の選定を行い、1976 年より施設と入所者の日々の幸せにつながるような品物を寄贈されております。

※自動車総連（全日本自動車産業労働組合総連合会）とは、自動車の製造、販売、輸送、その他自動車産業各部門に働く 77 万人からの労働組合です。1972 年の結成以来、福祉社会の基盤は人間尊重と互助の精神に根ざした思いやりの心と考え、社会福祉の実現に積極的な活動を幅広く進めておられます。



『門松作りに挑戦』



新年、ウインドヒルの門の前には手作りの門松が置かれています。屋外作業班を中心に職員と利用者が協力して一緒に作ったものです。

施設の裏山から
竹の切り出しと
運搬「2人で呼吸を
合わせて」



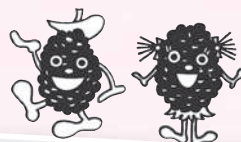
樽の周囲に
割った竹を巻く
「固定するのが
難しいなあ」



利用者は初めての作業に、悪戦苦闘しながらも一生懸命作りました♪

グループホーム風見の家の利用者がB型事業所で頑張っています

就労継続支援B型事業所の作業の紹介

[illegible]

はなまるうどんの箱折り作業に取り組んでいる利用者の様子です。

利用者一人一人が自分の役割をしっかりと理解し、いくつかの複雑な工程も間違ふことなく、的確に箱を組み立てています。

うどんの玉を入れるための箱ですので、衛生管理にも充分注意を払っています。仕事が始まる前には必ず手の傷や絆創膏の有無まで必ずチェックし、帽子とマスクは必須としています。

1 回の納品で約 1,000 個前後のうどん箱を納品していますので、常に約 3,000 個をストックしておけるように、利用者自身も数を気にしながら時間いっぱい集中して取り組んでいます。

その利用者の頑張りで、1ヶ月の工賃は、香川県の平均工賃を上回ることが出来ています。

新しい機材を導入しました♪



利用者の健康維持やレクリエーションの更なる充実のために、ジョイサウンドの「健康王国」を利用しています。

現在、外部講師をお招きして音楽療法や笑いヨガ、体操など毎月の定期レクとして取り組んでおりますが、職員が実施できる機器として導入しました。



懐かしい歌謡曲から最新曲、アニメの曲などに合わせて、簡単な動きから少し複雑な動きまで利用者の状態に合わせて体を動かすことができるので、レクリエーションの幅が広がりました。



第11回 地域とのつどい

平成28年11月13日（日）第11回 地域とのつどいを開催しました。

今回はアフリカンパーカッションの奏者である三好東曜氏をお招きしました。

初めて見るアフリカの太鼓「ジェンベ」の演奏に地域の方々、ボランティア、利用者、保護者、施設関係者が一体となって会場は大変盛り上がり、興奮冷めやらぬ雰囲気です。午前中のプログラムを終えました。

回数を重ねるごとに足を運んでくれる人も増え、ポム・ド・パンが地域と密接につながっている事を実感させていただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。

今後ともよろしくお願い致します。

水上先生のご指導のもと
ユニットごとに創作した
作品です。



迫力ある
ジェンベの
演奏に会場は
大興奮



初めて触る
アフリカの太鼓に
興味しんしん

施設見学報告



管理者 松原 正子

2施設が『グループホーム 風見の家』に見学に来られました。

○社会福祉法人 香川県をつなぐ育成会 あゆみ園

○NPO法人香川南部手をつなぐ育成会 どんぐり山作業所

両施設ともに、利用者の地域生活拠点として、グループホームの建築を計画中であり、風見の家の日課、生活支援のあり方、建築上の課題、設備等の観点などから様々な質問がありました。

障害者総合支援法の施行を踏まえ、第4期障害福祉計画が見直され、その案の一つとして、障害福祉サービス等の提供体制確保のため、地域生活への移行が成果目標として掲げられています。香川の地においても、保護者並びに利用者の生活状況の変容に対応できるような生活拠点が求められていることを感じつつ、障害のある方が豊かに暮らしていくためには、いろいろな視点からのサービス提供の在り方を考えるべきだ、と改めて思いました。

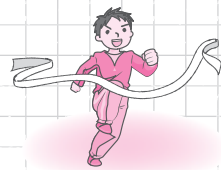
ウインドヒル・風見の家の主な行事

9/10
(土)

第17回障害者スポーツ大会

平成28年9月10日(土)にPikara スタジアム(香川県立丸亀競技場)で第17回障害者スポーツ大会が開催されました。大変暑い中でしたが、利用者と保護者、職員とともにチャレンジの時間を体験しました。競争競技(50m・100m・200m・1500m)やフライングデスク競技に参加しましたが、自閉症の方は競い合うという気持ちが希薄なため、競争相手より前に行くということを理解する事は困難ですが、その人なりの参加の仕方にも楽しさが伝わります。経験することでまた次のステップに挑戦していきたいと思います。

支援員 鎌田 泰明



9/22
(木)

デリバリーアーツ讃岐国分寺太鼓



9月22日、高松市主催のデリバリーアーツ2016が地域交流棟で開催されました。“高松市国分寺町から発信する音”をテーマに活動されている讃岐国分寺太鼓保存会の皆さまによる生の太鼓の演奏の迫力に、利用者も興味深く見入っていました。また演奏体験もあり、ダイナミックな“和の響き”を体感することができました。

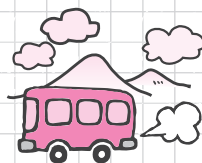
支援員 田中 美穂

10/18
(火)

秋季遠足 まんのう公園

平成28年10月28日(火曜日)。当日はコスモスが眩しく思えるほどの快晴でやや汗ばむ感じでした。二度目だったこともあり利用者・職員ともスムーズに移動することが出来園内でも一般客に配慮しながら時間ぎりぎりまで散策や大広場でバランスボール遊びなどをして秋の一日を楽しみました。

支援員 吉本 唯人



10/29
(土)

とっておきの芸術祭

アートリンク高松(高松市補助金事業)に参加して4年目、稲井美智子先生(画家名:秋月)に教えを頂き水墨画を初めて3年になりました。アートリンクは創造の時間として、芸術家 千葉直美氏が個々の持ち味を最大に活かしてくれる場であり、水墨画は基礎、墨の作り方から教えを頂いています。今回、利用者の作品を出展するにあたり多くの人に見てもらおう、知ってもらおうというのが目的でした。入選した4名の作品は立派な結果を残しましたが、ウインドヒルには作品という宝が沢山あります。これからも、多くの方々にサポートを受けながら個性豊かな宝を増やしていきたいです。

主任生活支援員 和田 真由美



10/21(金)
~
10/24(月)

第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷 いわて大会」

平成28年10月21日から24日の4日間、藤岡宏幸さんが、岩手県で開催された「第16回全国障害者スポーツ大会 一希望郷 いわて大会」のフライングディスク競技に香川県代表として出場しました。施設で練習に取り組み、現地では保護者の方も応援に駆けつけて下さり、アキュラシー5m 競技で第3位の銅メダルという、素晴らしい結果を勝ち取りました。

支援員 松原 健太



11/6
(日)

三谷地区文化祭

ご招待を受けて、今回で3回目となる三谷地区文化祭へ参加しました。余暇の時間を使って練習した「ひょっこりひょうたん島」と、毎月実施している健康まなび体操で取り組んでいる「笑び(美)体操」を利用者と保護者、職員で披露しました。会場の皆さまも一緒に体を動かしていただき、笑顔が溢れる楽しいひと時を過ごすことができました。地域の行事に招待され、参加できる事は本当にうれしいことだと実感した行事となりました。

栄養士 新名亜希子



12/20
(火)

クリスマス会

平成28年12月20日(火)に地域交流棟にてクリスマス会がありました。利用者57名、保護者36名の方が参加し、毎年恒例のユニット発表や健康まなび体操のまな先生のレクリエーションと大いに盛り上がり、最後に美味しいルーヴのケーキを頂きました。保護者会からは、クリスマスプレゼントで木の教材や健康グッズ、ブルーレイプレーヤーをプレゼントして頂きました。余暇の時間に利用者が楽しく過ごせるように大切に使用していきたいです。

支援員 松原 美恵



高松市保育所 特別支援保育担当保育士研修会

高松市から依頼をうけて、今回で7回目の研修会です。

保育所の現場において、障害を持っている園児さんの障害特性を適切に理解した上で、関わり方等について研修しました。

- 利用者の方が、一人の人間としての尊厳を守られ、豊かな生活を送るために、職員の皆様が一貫性を持って、継続した支援をしているということを知りました。また、就学前までのかかわりが大切であることや、将来を見据えた支援を考えなければならないことなど、学びの多い研修会となりました。
- 「障がいは、治すべきものでなく上手に付き合っていくもの」という言葉がとても心に響いた。
- 一貫性を保った援助を長い目で継続して行うことが、支援を必要とする人からの信頼や理解の獲得に繋がることを学んだ。
- 個室があったり、作業中のBGMが流れていたり、ウォーキング中のタオルの使い方など、様々な所で細やかな配慮があった。「施設」というイメージとは違って、人権を尊重するという大事なことを示していた。
- 施設内で自然とかけられる肯定的な言葉、自分でできたと感じられるよう、個々に合わせた支援ツールが大変参考になった。



～たくさんの感想をありがとうございました～

職員研修

●防犯訓練（高松市南署署員によるシュミレーション訓練と講話）

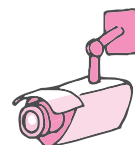
平成28年7月26日 神奈川県相模原「津久井やまゆり園」の障害者殺傷事件が発生。

当施設でも自衛手段の見直しを踏まえ平成28年9月27日（火曜日）高松南署署員招き防犯訓練を実施。

初めての実施であった事もあり訓練であると分かっていても咄嗟の出来事に殆ど対応出来なかった事を痛切に感じました。

今回、学んだことは ① 日頃から「イメージする事」。② 想定外は備えていないから。

今後の教訓として活かし強い組織作りを目指して行きたいと思います。



支援員 吉本 唯人

●障害者と薬物について（協力医 三光病院 星越活彦先生）

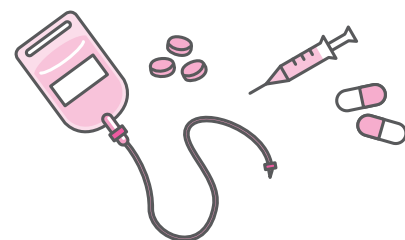
「障害者と薬物について」と題して星越医師の研修を受けました。

前回の研修の中での自閉症に適応するお薬はなく対症療法しかないというお話を踏まえて、今回は薬の特徴や症状に合わせた薬の使い方について学びました。

私たち職員にできる事は ①利用者の方の正確な情報を先生に伝える事

②処方された薬を正しく服薬させる事だと思いました。

いつも暖かい視線で見守って下さる先生に感謝いたします。



看護師 金川 恵子

●「縁と演」お菓子屋奮闘記（株ルーヴ 専務取締役 野崎 幸三）

毎月、実施している職員研修。今回は講師に野崎幸三氏（ルーヴ専務）を招いて「縁と演」お菓子屋奮闘記のお話をして頂きました。

テーマを知った時、一体どんなお話をしてくれるのか？興味が沸きました。

お話の中で「縁」とは、めぐり合わせ・人と人との関わり・関係を作るきっかけ、何より一緒に仕事をするうえ、縁で結びついている事、もう一つの「演」とは、物事を表現するときにそれを効果的に見せる大切な役割・感動的な一部分の演出である事を知りました。そして、今まで経験したことを踏まえ、とても貴重なお話でした。

お話を聞いて、自分自身に対し見つめ合う機会を与えて頂き、仕事にも大いに役立てると思いました。



支援員 松田 仁美

神奈川県相模原市「障害者支援施設 やまゆり園」の事件に寄せて



あまりにも衝撃的で痛ましい事件が7月26日発生しました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々の心身ともに一日も早い回復をお祈り申し上げます。

この事件を踏まえて、利用者の安心・安全な生活を提供するためには、社会福祉施設として今後、どのように対策を講じるかという課題が残されました。

そして、厚生労働省からは、下記のような助言が周知されました。

- ◆地域と共生して、地域に開かれた社会福祉施設になること。
- ◆防犯に係る安全確保がされた社会福祉施設となること。

ポム・ド・パンは、日頃から利用者が社会に出て活動を行い、また、地域の清掃活動、地元日山への山登り、地域の行事等に参加して、顔の見える関係づくりを構築し、継続しています。障害に対しての理解をより深めて頂くとともに、利用者がだれからも愛される人に成長できるように支援し、職員同士の連携を深めて精進していきます。

11月28日に現地、やまゆり園へ弔問に伺い、改めて事件の悲惨さを感じ、生きる権利を奪った事件を今後どのように受け止めていくべきかを問われる状況であると感じました。

管理者 松原 正子

使用済み切手回収のお願い

ウインドヒルの使用済み切手回収にご協力ください!!

何かの役に立てるよう、できることから始めよう。

捨ててしまえばただのゴミ。集めることで誰にでもできる身近な国際協力活動に!!
皆様の周りの職場・学校・ご家庭・グループなどで呼びかけ、ご協力いただくと幸いです。



Q 使用済み切手はどのように役に立つの?
集めた切手は…

1 『タンザニア・ポレポレクラブ
(<http://polepoleclub.jp/>)』へ送付
◆東アフリカのタンザニアで村人とともに植
林活動に取り組んでいる市民グループ◆

2 コレクターに買い取って
もらい、資金化

3 世界遺産に登録されている
キリマンジャロ山での植林活動資金に!
(使用済み切手 40g=1本の木)

*成果はタンザニア・ポレポレクラブ様のホームページにて紹介されます。

Q どんな切手を集めているの?

○ 国内の使用済み切手/外国の使用済み切手/
未使用の切手



✕ 破れた切手/官製はがきの切手部分/
料金後納郵便、料金別納郵便のスタンプ/メール便のシール



《切り取り方》

- ・切手の周りを0.5~1cmほど切り取ってください。
- ・台紙はそのままで結構です。封筒やはがきから剥がす必要はありません。
- ・スタンプ(消印)が切れてしまっても大丈夫です。

《分類》

- ・日本の切手と外国の切手は分けてください。
- ・未使用の切手と使用済みの切手は分けてください。
- ・切手の枚数を数える必要はありません。

切手は随時『ウインドヒル事務所』にて受付しています!!

タンザニア・ポレポレクラブ様よりお礼のメールをいただきました。

この度は、当会の収集活動にご協力をいただき大変ありがとうございます。お送りいただきました使用済み切手による資金は、世界遺産キリマンジャロ山で村人たちが取り組んでいる植林活動の支援のために、大切に役立てさせて頂きます。(今回お送りいただきました使用済み切手で、10本の苗木をキリマンジャロ山に植えることが出来ます。)

なお、この収集活動にご協力いただきましたみなさまのお名前は、当会の以下のホームページにて、ご協力へのお礼を兼ねましてご報告をさせていただきます。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員 (敬称略・順不同)

◆個人会員 平成28年度 平成28年9月1日～平成29年1月31日

小泉 芳博 佐竹 勝利 稲田 勤 横田 忠 森 里子 後藤見知子 高山 照子

◆団体会員 平成28年度 平成28年9月1日～平成29年1月31日

香川トヨペット(株)

平成28年9月1日～平成29年1月31日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会頂きました。

平成29年2月以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。

本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいませようお願い申し上げます。

年会費 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

ご入金方法 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました。

苦情解決処理状況(平成28年10月1日～平成29年1月31日) 苦情受付件数 0件

保護者会よりたくさんの
クリスマスプレゼントをいただきました。
大切に使用させていただきます。



ありがとう
ございました

保護者会コーナー

「第30回全日本自閉症支援者協会 函館大会に参加して」

11月10日(木)～11日(金)の2日間、第30回全日本自閉症支援者協会(昨年から改名)函館大会に参加させて頂きました。

テーマは「自閉症の方々の合理的配慮を考える」。

「合理的配慮」とは、障害のある人から何らかの助けを求める表明がある場合、過度な負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な便宜のことである——障害者権利条約第2条より。コミュニケーションでの伝達が不得意な障害の特性を理解して、物理面では絵カード、コミュニケーションボード等を作って心理面では気持ちを読み取ったり代弁したり等、障害者本人に支援や配慮をする事です。

自閉症者本人に様々な試みを実践、模索しながら支援を行っている施設からの報告がありました。個々の特性に応じた対応を支援員皆で考え、その子から発せられる要求を少しでも読みとろうとする努力。本気で正面から向き合ってくれている姿勢。そこからは専門知識も大切、コミュニケーションツールも大切。でも最後は、いかに愛情を持って人として尊重してくれているか、その姿勢、気持ちが一番だと感じました。改めて自分の施設を振り返り思った事。まだまだ年数浅く若い施設ですが、子供達に対する愛情は、どこよりも深く本気で取り組んでくれていると再認識、そして感謝でした。

もう一ヶ所ご報告。その施設は、人間として豊かで幸せに責任をもつて人生を送る、をモットーにどんなに障害が重くとも一生懸命働き人生を楽しんで豊かに生きてほしいと。働く事で社会の一人として生きるという責任、喜びを感じてほしいと。日々支援されています。仕事に向かう姿勢やその表情から本当に人生を楽しんでいると感じとれました。障害を持ちながらも充実した日々と笑顔の人生が送れば、それが何ものにも代え難い親の幸せだと私は思っています。年々老いている現状ですが、それでも何か関わりを持ちサポート出来る事があるはず。いつかは委ねなければいけない日が来るその時までは正面から向き合う一番のサポーターでありたいと痛感しました。

最後にこのような機会を頂き、本当にありがとうございました。文章が拙くうまく伝えられていない点、誠に申し訳ありません。来年は、新潟開催です。他の施設を見聞きし、改めてポム・ド・パンを知る良い機会です。是非参加してみたいかがでしょうか。

田岡 恭子

編集後記

今回号でも掲載していますが、「地域とのつどい」や「三谷地区文化祭」をはじめ、昨年はいろいろな地域の行事に参加させていただきました。
障害者支援施設ウインドヒルとグループホーム風見の家が、沢山の地域の方々のあたたかいご支援で支えられている事に感謝でいっぱいの一年でした。

松ぼっくりの
ポムです。



松ぼっくりの
パンです。

